

令和 4 年 6 月 15 日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K02708

研究課題名(和文)古記録の言語学的分析に基づくアイヌ語史の検証

研究課題名(英文) A study of the history of the Ainu language based on the linguistic analysis of old documents

研究代表者

佐藤 知己 (SATO, TOMOMI)

北海道大学・文学研究院・教授

研究者番号：40231344

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の成果は大きく分けて三つである。第一にアイヌ語の最も古い時代の文献の用字法の特徴を明らかにしたことである。これによりアイヌ語古文書の年代決定に手がかりが得られた。二つ目は早くに失われた日本海沿岸地方のアイヌ語方言の古文書を研究したことである。その結果、日本海沿岸地方のアイヌ語方言は、美幌などの北海道東部方言と共通の特徴を持つ可能性が高いことが明らかとなった。このことは北海道東部方言が古い特徴を保っている可能性があることを示唆するものであり言語地理学的に興味深い結果と言える。第三は貴重なアイヌ語古文書4種の翻刻、各種索引、分析を含む報告書を四冊刊行し今後の研究の土台を与えたことである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

アイヌ語は文字で表記する習慣がなかった言語であるため、古い時代の正確な記録がない。そのため、ほとんど未解明であったアイヌ語の歴史の変遷を、これまで研究に利用されていなかった日本各地に散在する断片的な古文書資料を収集、分析することによって明らかにした。これにより、日本語や近隣諸言語との歴史的関係を正しく推測する足がかりが得られた。また、このことは、直接的な文献資料がほとんどないため、不明な点が多かった日本列島北部における過去の言語状況を実証的に明らかにすることに役立ち、日本列島に展開した言語、文化の多様性が浮き彫りにされ、日本とは何かをより深く知ることができる。

研究成果の概要(英文)：The main results of this project are as follows: first, important notational characteristics of the major oldest Ainu documents have been shown. This study will serve to estimate the exact age of various valuable old documents of Ainu. Second, old documents of the Ainu dialects in Japan Sea coastal regions which were lost very early have been investigated. Contrary to our expectations this study shows us for the first time that these almost unknown Ainu dialects most probably have a number of features common to East Hokkaido Ainu dialects. This result is very interesting because such an "ABA" type distribution suggests that East Hokkaido Ainu dialects may keep more archaic features in light of linguistic geography than Central Ainu dialects. Third, the reports of the study of four rare valuable old documents of Ainu have been published, which include their transliterations, various indexes, and philological descriptions, which will be useful for the study of the history of Ainu.

研究分野：言語学

キーワード：アイヌ語 古文書 歴史言語学 言語変化 方言 言語地理学 文献学

1. 研究開始当初の背景

言語研究は共時的研究に加えて通時的研究が必要であるが、アイヌ語の場合は古い文献がないため、事実上、歴史的研究としては方言の比較研究しか手がかりがなかった。話者自身が残した信頼のおける記録ではないが、旅行者や探検者が残したアイヌ語の記録は多数ある。しかし、信頼性に問題があり、また、古文書資料で解読が困難であるため、ほとんど研究がなされていなかった。また、さらに古い記録を探索する努力もほとんどなされていなかった。そのため、アイヌ語の歴史については実証的な研究が不足していた。

2. 研究の目的

本研究は、アイヌ語研究に通時的研究という観点を加えてさらに深い見地からアイヌ語を考察することを主要目的としている。より具体的には以下のようなものである。通時的研究には比較方法に加えて、直接性が高い、文献による研究が不可欠であり、両者を併用して研究を深める必要がある。アイヌ語の場合、古い記録を持つ言語の場合と必ずしも同じレベルでの研究は困難だが、直接性の高い資料である古文書資料を言語資料として用いて、総合的にアイヌ語史を研究することを目的としている。

3. 研究の方法

古文書資料は解読が困難なものがほとんどであり、まずそれらを解読して接近可能な形に分析する。次に、アイヌ語の歴史的事実とは独立した表記上の要因や不測の誤写をより分けるために、表記に使用されている文字の索引を作成する。また、採録されているアイヌ語の総索引を作成する。次に表記の研究結果を利用して、現在知られているアイヌ語と異なる特徴を示していると考えられる事例を明らかにし、方言の比較研究で提唱されているアイヌ語の歴史的变化の諸事例と対比し、総合的に考察する。また、現代の資料では知られていない諸形式や諸情報、現代では知られていない地方のアイヌ語方言の資料を古文書によって補完し、そこから知られる事実をさらに加えてアイヌ語の歴史的变化を考察する。

4. 研究成果

まず、アイヌ語の古記録を研究する場合に前提となる表記に関する研究成果として、論文、佐藤知己「アイヌ語古文書における仮名の用法」『北海道大学文学研究科紀要』(154) 73-99 2018年、佐藤知己「蝦夷記のアイヌ語申渡文における仮名の用法」岡嶋裕剛・加藤重広『日本語文字論の挑戦』344-359 勉誠社 2021 を発表した。また、表記、文献学的研究の成果として、報告書を作成した。まず、佐藤知己『蝦夷言留の研究』北海道大学大学院文学研究院 2020 は、アイヌ語文書の書写においてどういう誤写が生じやすいかを実証的に研究したものである。この研究により言語資料としてアイヌ語の古文書を利用する際に不可欠な表記上の知識が得られる。佐藤知己『関場本松前嶋郷帳の用字法』北海道大学大学院文学研究院 2021 は古い層に属する数少ないアイヌ語資料を、通常はアイヌ語資料とはみなされない、古いアイヌ語地名資料(正保年間)により補う新しい試みである。佐藤知己『山形県酒田市立光丘文庫所蔵「蝦夷記(蝦夷詞巻)」翻刻・索引』北海道大学大学院 2022 も、文字表記から、これまで知られていない古い層に属するアイヌ語資料が含まれている貴重な資料であること、これまでほとんど全く知れていないアイヌ語の語彙の三つの分類(口語、口頭文語、隠語)に関わる

豊富な資料を含むものであることを明らかにした。また、佐藤知己『北海道西海岸地方アイヌ語方言の研究』北海道大学大学院文学研究科 2019 は、早くに失われたために現代の資料がほとんど全くない北海道日本海沿岸地方の新発見の資料を分析し、現在知られている北海道北東部地方方言との類似を指摘したもので、今後、他の資料の発見、検討によってこの点がさらに立証された場合、言語地理学的観点から、日本海沿岸地方方言と北海道北東部方言との比較により、アイヌ語のより古い特徴が解明できる可能性を示した。なお、以上の研究成果に間接的に関連する成果として、アイヌ語の音韻、文法にかかわる論文、海外のアイヌ語資料に関する以下の論文、報告を作成した。

佐藤知己, 北原モコットウナシ, Silja Ijas 「北海道大学キャンパスガイドマップ」のアイヌ語併記作業について 翻訳と脱植民地化に関する議論をめぐって」『アイヌ・先住民研究』(2) 75-101 2022

佐藤知己「国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ語復興の試みに関する簡潔な報告と今後の課題」『社会言語科学』24(1) 135-143 2021

Anna Bugaeva, Tomomi Satō A Kuril Ainu Glossary by Captain V. M. Golovnin (1811) *International Journal of Eurasian Linguistics* 3(2) 171-216 2021

佐藤 知己「アイヌ語学の諸問題：近年の議論と関連して」『北海道大学文学研究院紀要』165 1-29 2021

佐藤 知己「アイヌ語千歳方言におけるわたり音化とわたり音挿入について」『北海道大学文学研究院紀要』(163) 23-43 2021

BUGAEVA Anna, SATO Tomomi An Ainu Uwepeker Text by N.A.Nevskij 『北方言語研究』(11) 181-212 2021

佐藤 知己「アイヌ語千歳方言の位置名詞 or の用法」『北方言語研究』(11) 81-98 2021

佐藤知己「名詞所属形を用いたアイヌ語の所有構造について」『津曲敏郎先生古稀記念集』201-213 2021

佐藤知己「アイヌ語における文法的カテゴリーの転換について」『北方言語研究』(10) 219-230 2020

佐藤 知己, アンナ・ブガーエバ The Study of Old Documents of Hokkaido and Kuril Ainu: Promise and Challenges 『北方言語研究』9 67-94 2019

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 3件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 佐藤知己	4. 巻 -
2. 論文標題 蝦夷記のアイヌ語申渡文における仮名の用法	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本語文字論の挑戦	6. 最初と最後の頁 344, 359
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤知己	4. 巻 11
2. 論文標題 アイヌ語千歳方言の位置名詞 or の用法	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 北方言語研究	6. 最初と最後の頁 81-98
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 佐藤知己	4. 巻 56
2. 論文標題 アイヌ語の謎解きに挑戦	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 時空旅人	6. 最初と最後の頁 64-67
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤知己	4. 巻 -
2. 論文標題 名詞所屬形を用いたアイヌ語の所有構造について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 津曲敏郎先生古稀記念論集	6. 最初と最後の頁 201, 213
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤知己	4. 巻 10
2. 論文標題 アイヌ語における文法カテゴリーの転換について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 北方言語研究	6. 最初と最後の頁 219, 230
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sato, Tomomi and Anna Bugaeva	4. 巻 9
2. 論文標題 The study of old documents of Hokkaido and Kuril Ainu: Promise and challenges	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 北方言語研究	6. 最初と最後の頁 67,94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤知己	4. 巻 154
2. 論文標題 アイヌ語古文獻における仮名の用法 日本語とアイヌ語とで表記上の差異は存在するか	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 北大文学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 73,99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1493/bgs1.154.173	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 佐藤知己
2. 発表標題 在ロシア千島アイヌ語資料の意義 江戸時代の古記録との関係を中心に
3. 学会等名 北海道大学文学部 北方研究教育センター談話会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐藤知己
2. 発表標題 アイヌ語の所属形は「もの」から来たか
3. 学会等名 日本歴史言語学会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 佐藤知己	4. 発行年 2021年
2. 出版社 北海道大学大学院文学研究院	5. 総ページ数 102
3. 書名 関場本松前嶋郷帳の用字法	

1. 著者名 佐藤知己	4. 発行年 2020年
2. 出版社 北海道大学大学院文学研究院	5. 総ページ数 103
3. 書名 蝦夷言留の研究	

1. 著者名 佐藤知己	4. 発行年 2020年
2. 出版社 北海道大学アイヌ先住民研究センター	5. 総ページ数 168
3. 書名 アイヌ語調査資料のデータベース化に関する基礎的研究(9)	

1. 著者名 佐藤知己	4. 発行年 2019年
2. 出版社 北海道大学大学院文学研究科	5. 総ページ数 187
3. 書名 北海道西海岸地方アイヌ語方言の研究	

1. 著者名 佐藤知己	4. 発行年 2022年
2. 出版社 北海道大学大学院文学研究科	5. 総ページ数 286
3. 書名 山形県酒田市立光丘文庫所蔵「蝦夷記（蝦夷詞巻）」翻刻・索引	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------